Quantitative Study of the Multi-Dimensional World

by
Hideo Seki
President, ALCR, Inc.

ABSTRACT

On the contrary to the general common sense, personal diseases or the large scale disasters are not mere accidental natural phenomena, instead they are all messages from the cosmic information center. If the person could understand the meaning of their messages and reform his mistakes, his sickness may be healed. If the general public and their leader could decipher the messages and change their minds, the calamities will be ceased. If not, undesirable phenomena will be repeated again and again with violence.

Speaking of the quantitative study of the multi-dimensional world, the author had an experience of verifying " the law of cause and effect. As this law can be applied to all the phenomana in our Universe, there must exist some travelling waves which are much faster than the light waves which are widely accepted in modern physics. So, the present author was obliged to introduce "psi waves " which may be rather unfamiliar to most of the modern scientists . After verifying the law of cause and effect, the author arrived at an existence of the cosmic information center and found its role playing with all the mankind in our universe. For example, the personal diseases and the large scale disasters may be taken as messages to the mankinds.

These are the author's conclusion after a concentrated long time quantitative studies on the Multi-Dimensional World. He strongly recommends the mind purification so as to avoid the unfavorable diseases and disasters. This mind attitude is especially necessary and important at the turn of the Century when the transition of sacred grade of Earth will be taken place every hundred million years under the intended plan of the cosmic information center. The details of these circumstances may be written in this paper.

多次元世界の定量的考察

関　英男（加速学園代表）

1．はじめに

現在の時点で，人間にとって何が最も重要であるかと言えば，“宇宙の理”である，と言うことが出来る。かりに『現在の時点』という条件を外せば健康とか，経済とか，他にいろいろあるかも知れない。しかし，いま地球は1億年に1回くらいしかないという格上げを迎えようとしており，人間社会で初めて経験する大転換機に面するわけだから，新たな心組を迫られているからである。そして，その前兆としての激しい天災地変を現に目の当たりにしているわけである。

それにもかゝわらず，一般にはあまり関心を惹かないのは，その理解のために，多次元構造の宇宙の仕組みを解明することの困難さを挙げることができよう。なぜ困難かというに，一つには，光速より速いものがないという信念にも似た概念があるためではないかと思われる。しかし，電波では，太陽までゞさえ8分あまりかゝるのであるから，それより桁違いに遠い宇宙のことを把握することなど思いもよらないわけである。一方，電波より桁違いに速い念波に関心のある科学者も少ないと想像されるので，筆者がこれから御説明申しあげることも，あるいは仲々受け入れて貰えないのではないかと恐れている。しかし，時期が時期だけに，今の時点に発表しなければ多分手遅れになる心配もあって，思い切り正直なことを公表することに踏み切った次第である。

まず，現在の地球科学・技術では念波を半導体などのデバイスで発生・検出する手段がないので，人間の大脳の不可視部分に依存する方法に就いて説明する。次に念波は高速なので，宇宙の果てまで短時間で到達できることを述べ，ひいては因果律の成り立つ理由を解説してみたい。そして，宇宙情報センターの情報処理能力まで言及する積もりである。

これらの予備知識をもった上で，各個人の病気や，大規模な天災・地変が宇宙情報センターよりのメッセージであることを説明し，これをヒントとして，メッセージの意味を知り，反省することができれば，病気も災害も避けられるものであることを論じたい。しかも，この理論は地球に限らず，宇宙到るところにある天体において適用できる一般性をもっている。メッセージが特定の言語を用いないのも，こんなところに訳があるのかも知れない。

この論文を締め括るに際して，この重大な時期を乗り切るために『洗心』を是非実行したいということを強調する次第である。

2．念波

念波という言葉を最初に使ったのは，故田原澄女史であって，1962年１月20日に第１回念波天文学の会を開いたのに始まる。たゞし田原さんは，それより９年前の1953年頃から，洗心によって念波を使うことが可能になり，宇宙の仕組みを理解できるようになられていたのであった。現在は故人となられたので，三代目の城戸縁信さんが『ザ・コスモロジー』の名で宇宙よりの情報を月刊誌に発表しておいでになる[1]。

さて，念波の解説に関しては，拙著『念波』[2]に詳しく書いてあるが，表１のように色々の周波数があり，それらの速度も区々である。

表１　念波の定量的性質

念波の名称	周波数 (Hz)	伝搬媒質 (図３参照)	念波速度 (cm/s)
ケゴット	10^{10}	λ	10^{10}
ディレカ	10^{16}	λ	10^{10}
セギン	10^{18}	λ	10^{10}
ギマネ	10^{22}	μ	10^{40}
ディレッジ	10^{38}	μ	10^{40}
フィーゴク	10^{42}	ν	10^{70}
複合波	10^{100M}	π	10^{100}

地球上の科学・技術で念波を発生・検出をすることは，現状では不可能であるが，人間の大脳の不可視部分では可能である。図１は両方の部分をモデルで表したものである。可視部分はPaul MacLeanが1970年頃発見した『三位一体の脳』[3]であり，不可視部分は文献[2]で説明した『七念層』である。これら両方の層は，だれでも一般にもっているのであるが，両方の層を橋渡しする役目のアンタカラーナ（Antahkarana）はだれにでもあるというものではないのである。これをもった特種の人はいわゆるテレパシーのできる人である[4]。

ベンジャミン・クレームはかれの著書[5]のなかで伝導瞑想をすると，次第にアンタカラーナが伸びるものだと言っている。しかし，必ずしも伝導瞑想をしなくても，田原さんのように洗心しただけで宇宙が分かるようになった例もある。筆者は，洗心と瞑想と対にして実行するのが安全だと考えている。

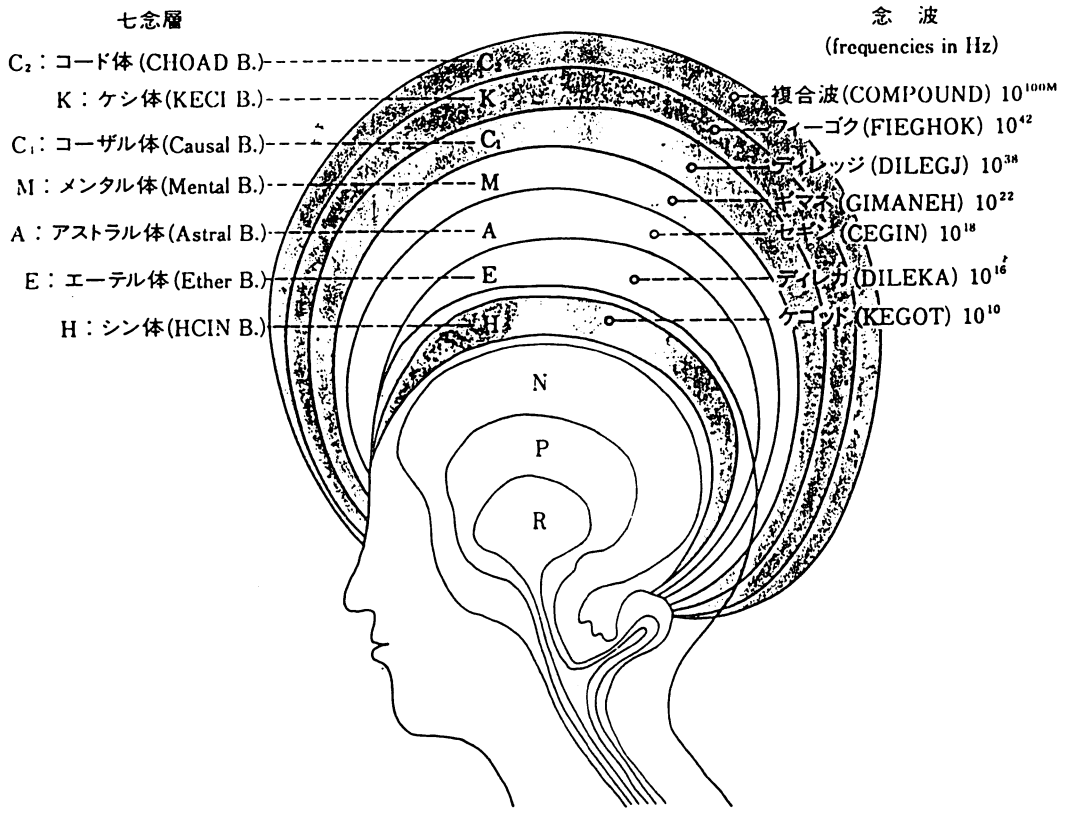

図1 七念層と念波

3．宇宙情報センター

宇宙全体の定量的大きさについては後で考えることにして，まず，人間と宇宙情報センターとの間で交信されている経路を図2で表してみた。

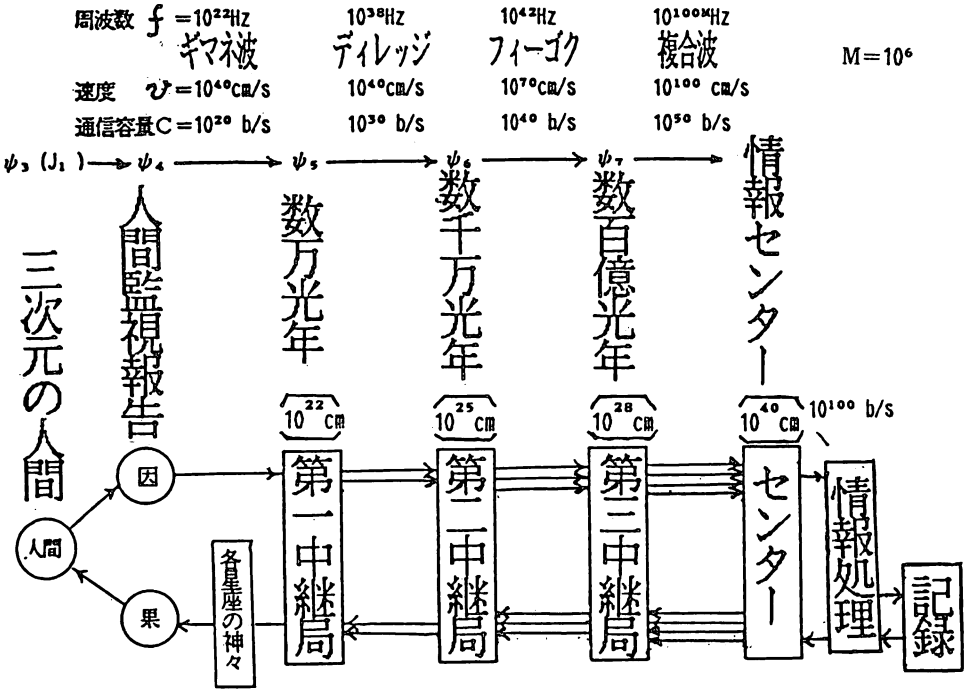

図2 人間・センター間の情報流通経路

こゝで三次元の人間には少なくても御三方の四次元的存在がついていて、守護・指導をしているとのことであるが[6]，かれらは，つかれている人間の行動ならびに思想をセンターに報告する役目もしているものと考えられる。センターまでは図2のように3ケ所の中継局が必要である。第1中継局は銀河系全体の人間の情報を集め，第3中継局では全宇宙の人間の情報を集める。従って，第3とセンター間のルートでは第1までのルートに比べて著しく通信容量が大きなものでなければならない。第2中継局はそれらの中間的存在である。また，センターの情報処理能力はわれわれの想像を絶する巨大なものであろう。それに，処理する必要のあるのは人間に関するものだけではないからである。従って，現在地球上で使用している程度の電子技術では到底役に立たないことが分かる。一体宇宙全体でどれくらいの人間がいるであろうか。Sebastian von Hoerner [7] よれば，文明相互間の平均距離は約 500光年（LY）であろうと推定している。銀河の直径 10^5 LYとし，すこし数が多くなるが，円盤の代わりに球体と仮定し文明の数Nを計算すると，約 10^7 個となる。一文明に平均10^8 人とすれば，銀河系の全人口は10^{15}人，銀河系のようなものが宇宙に10^{11}個あれば，その人口は10^{26}人となる。しかし，後でのべるように，われわれの宇宙のようなものがさらに10^{11}個あると考えると，結局全宇宙の人口は10^{37}人と推定される。

そこで，センターに送る情報量が1人当たり1回 1000 bits程度と仮定すれば，全宇宙の人について，1回に 10^{40} bits の情報量となる。図2によって，最終ルートの通信容量は10^{50}b/sであるから，全宇宙の人の報告は10^{-10} 秒で完了することになる。

つぎに宇宙の大きさであるが，故在藤泰秀さんはフーチパターンを使って，極大10^{68}，極小10^{-68} をだして教えられた。これには単位を指定してなかったが，かりに長さの単位cmをいれてみた。そして，常識を便りにして，基準点を10^{-24} cmと仮定した。そうすると，極小は10^{-92} cm，極大は10^{44}cmとなった。一方，宇宙には階層性というものが成り立ちそうだと言う直感から，大体20桁，たまに19桁を間隔に7つの階層に分けてみて図3を得た。素粒子より小さい微小な粒子よりなる層に順次，λ，μ，νおよびπ層などと命名して図3に記入した。電波はλ層だけを伝わり，速度が 3×10^{10}cm/sと一定で，これを越えることができないのに対して，周波数の遥かに高い念波は，μ，νおよびπ層を伝わり，電波より桁違いに速い速度をだすことができる。一方，周波数が高いと，大きい通信容量を容易に得られるから，大量の情報を短時間に伝送し，処理することも可能になる。

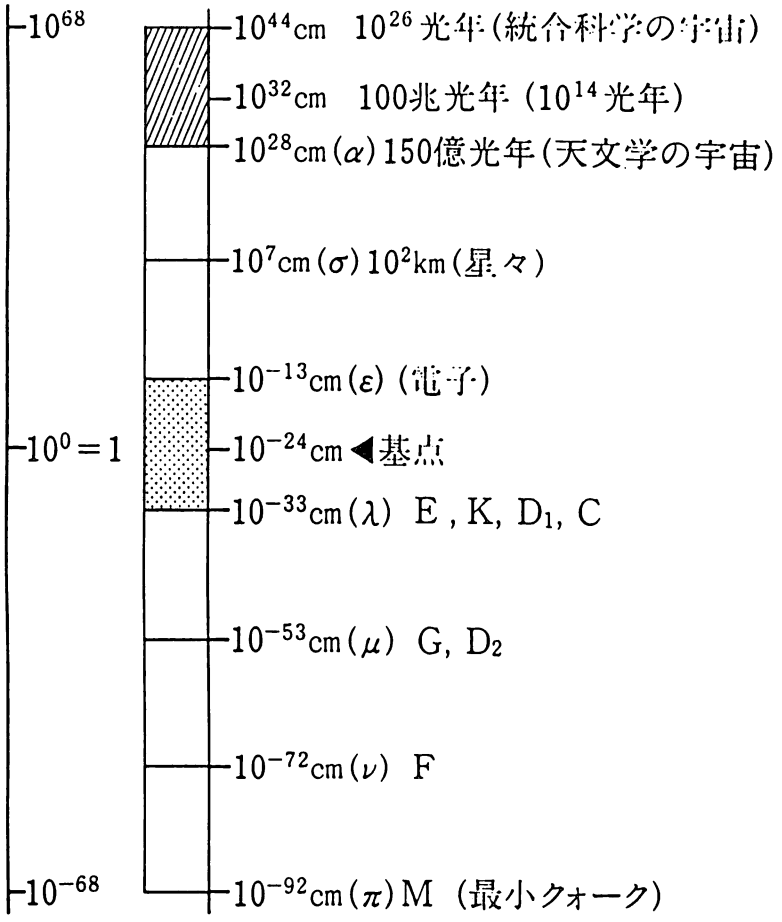

図3　極大・極小と宇宙の広がり
(宇宙階層性)

4．因果律

図2は因果律を説明するのに便利である。筆者はこれによって因果律の存在を証明したことがある[8]。例えば，激しい怒りの感情を抱いた人があったとすれば，側についている四次元の存在は直ちにセンターに報告し，そこで処理して結論を逆のルートで送り返してくるが，それは本人が反省するための善意のメッセージで，病気と言う形で表現される。ただし，体の各部の病気は沢山ある銀河系の中の星座によって担当が決まっているらしい。怒りに相当しては肝臓の病であるが，その担当は第29番パウエルの七つの光線の座となっている。この操作は善意によるものであるから，本人がその意味を理解して，反省し，怒りの心を起こさないようにすれば，治る可能性が出来る。また，医師または気功師などに治療してもらっても，かりに反省という心がなければ，再発の可能性が大きい。

なお，上に挙げたパウエルの七つの光線の座という星座は天文学で認められていない。これは故在藤泰秀さんがフーチ・パターンで発見された星座である。また，天文学では第29番というような番号に何の意味もないが，こゝでは番号が重要な意味をもっている。

また，集団が誤った心を起こした場合（特に指導者の我欲が強い場合）には天災・地変が善意のメッセージとなる。もし，その意味が理解されず，反省がない場合は繰返し，繰返し発生し，その強さが激しくなる。集団で反省は仲々困難であるから，長期に亘ることが多く，その具体例が20世紀末の５年間である。先にも述べたように，幸いにして地球が格上げによって，集団の反省が可能になれば，21世紀に入って次第に減衰し，遂に天災・地変のないようになるのを期待するものである。

なお，病気や天災・地変も善意でないものが有り得る。また，それを判別できる特種の人もある。そして，その様な場合は，治療も，回避も許される。たゞ，その様な操作の出来る人は限られていて，普通の人がやると危険が大きい。いずれにしても，処理が複雑で厄介である。一番簡単なのは，万遍なく洗心の全ての項目を守ることである。そうすれば，善意のメッセージも来ないし，悪意の病気や災難も起こらなくなる。

表２および表３は二つの文献[10] [11]を参考にして作製したものである。

表２　常の心と　相関率 100%の身体各部　および学習関連の身体各部の相関率%

常の心	異常の心	相関率100%の身体各部	学習に関連ある身体各部の相関率
強く	恐怖	子宮	脳 80%
	強迫観念		海馬50%
	非常な恐怖	精巣，泌尿器系，喉頭，肛門，心筋層，神経細胞，灰白隆起，毛髪	脳下垂体 71%
正しく	嘘*	ケロイド*	白内症*，全盲*，喉*
明るく	無表情	脳，腹部疾患*	視神経 48%
	悲しさ	血液，蜘蛛膜，リンパ腺	海馬 33%
	淋しさ	脳下垂体，海馬	
	抑鬱	前立腺，心筋層，皮膚，腎臓 肺結核*　十二指腸潰瘍*	脳下垂体 71% 左眼網膜剥離*
我を折り	頑固*	糖尿*　黄疸*　癌*	聴覚*，脳出血*
欲を捨て ←	宜しからぬ欲	痔*	
特仲よく相和して	悪口*	狭心症* 中風* パーキンソン*	後頭部*，唖*
感謝の生活	忘恩*	慢性鼻詰まり*	目の濁り*　神経質*

表3 御法度の心と身体各部の相関率100%および学習関連各部の相関率

御法度の心	相関率100%の身体各部	学習に関連のある身体各部の相関率
憎しみ	回腸，皮膚，リューマチ*	ニューロン81%，海馬71%
嫉み	直腸　甲状腺	視神経　52%
猜み	瘤*，体臭*	
羨み	骨格系，皮膚，ホルモン	脳神経と機能
呪い	他人に発病・致死を与えても，自分も反作用を受ける覚悟が必要です	
怒り	腹部*，肝臓*，虫垂*，盲腸炎*	
不平	胃　ポリープ*	脳71% 視神経71%
不満	腹膜炎*	
疑い	心臓，	海馬71%，脳下垂体62% 灰白隆起62%
迷い	脊椎，骨格，腸	脳神経と機能
心配心	大腸，胃，黄疸，中風 腸管，直腸，肝臓	脳19%
咎めの心	血液，リンパ節， 卵巣，精巣，蜘蛛膜， 副腎，脾臓，	海馬52%
いらいら	肋間神経，頸椎神経， 腰椎，仙骨	脳20%
せかせか	痔*	

注：　*印は『人事相談』より引用させて頂きました。

5．主要な宇宙情報ルート

図4は20世紀末に皺寄せされてきた現象に関して，四つのルートを選び，表示してみたものである。最も権威のあるのは左端の宇宙情報センターのもので，1983年に地球が不良星から優良星に昇格することが正式に発表された[12]。次に，弥勒菩薩が1977年７月ヒマラヤに出現され，現在ロンドンのアジア地区に住み，1996年頃全世界のＴＶに出演され，指導の言葉を述べる予定と承っている[13]。ノストラダムスの預言は，445 年のうち，天災・地変が1995年～2000年の５年間に集中していることを述べている。そして，正しい暗号解読は1995年のころ日本人によってなされることまでかいてある[14]。H.G. Wellsは紀元2106年を起点として 173年間の歴史書の形式で 1933 年に発表した[15]。

6．おわりに

結局，21世紀には今までの常識の通用しない社会に変貌するが，洗心さえすれば何事も心配することはない。洗心とは宇宙情報センターょり通知された心構えであるが，常の心と御法度の心の二部よりなり，前者は表２の左欄に，後者は表３の左欄に示めされている。

参考文献

（１）『宇宙の理』は月刊誌で，ザ・コスモロジー（〒165 中野区上鷺の宮4-6-24）発行
　１冊送料とも 500円，年間会費 8000 円，ただし，電話と直接訪問は出来ない。
（２）関　英男：「念波」加速学園1990年初判，1994年改訂判
（３）ポール・マクリーン原著，法橋登訳：『三つの脳の進化』，工作舎1994刊
（４）関：「テレパシー通信」電子情報通信学界誌1995年１月号，Vol.78,No.1,pp.10-15
（５）ベンジャミン・クレーム原著，石川道子訳：『マイトレーヤの使命Ⅱ』，シェーア・ジャパン1993,5,1（〒501-32岐阜県関市稲荷町）
（６）板谷樹，宮沢虎雄：「霊魂の世界」日本心霊科学協会，1971年３月15日発行
（７）Sebastian von Hoerner: Astronomical Aspects OF Intersteller Communications, Astronautica, Vol.18, pp.421-430, Pergamon Press,1973.
（８）関；宇宙情報系と因果律，サイの広場，Vol.15, No.1, 1994, 日本サイ科学会
（９）関：『宇宙情報系』，加速学園1994年11月改訂版（初版1989年）
（10）江本勝：『波動時代への序幕』㈱サンロード1992年11月20日発行
（11）上記（１）月刊誌『宇宙の理』人事相談欄30年分位を参考にさせていただいた。
（12）取次ぎの神：「地球の天位転換」，『宇宙の理』1983年９月号，ザ・コスモロジー
（13）『シェア・インターナショナル』 1995 年７月号
　　（有）青村出版社　〒501-32　岐阜市関町郵便局　私書箱53号
（14）池田邦吉：「ヨーロッパ大崩壊」うぃずゆう1995年発行（〒192 新宿区戸山1-1-10）
（15）H.G. Wells原著，吉岡義二訳：「世界はこうなる」新生社1958発行

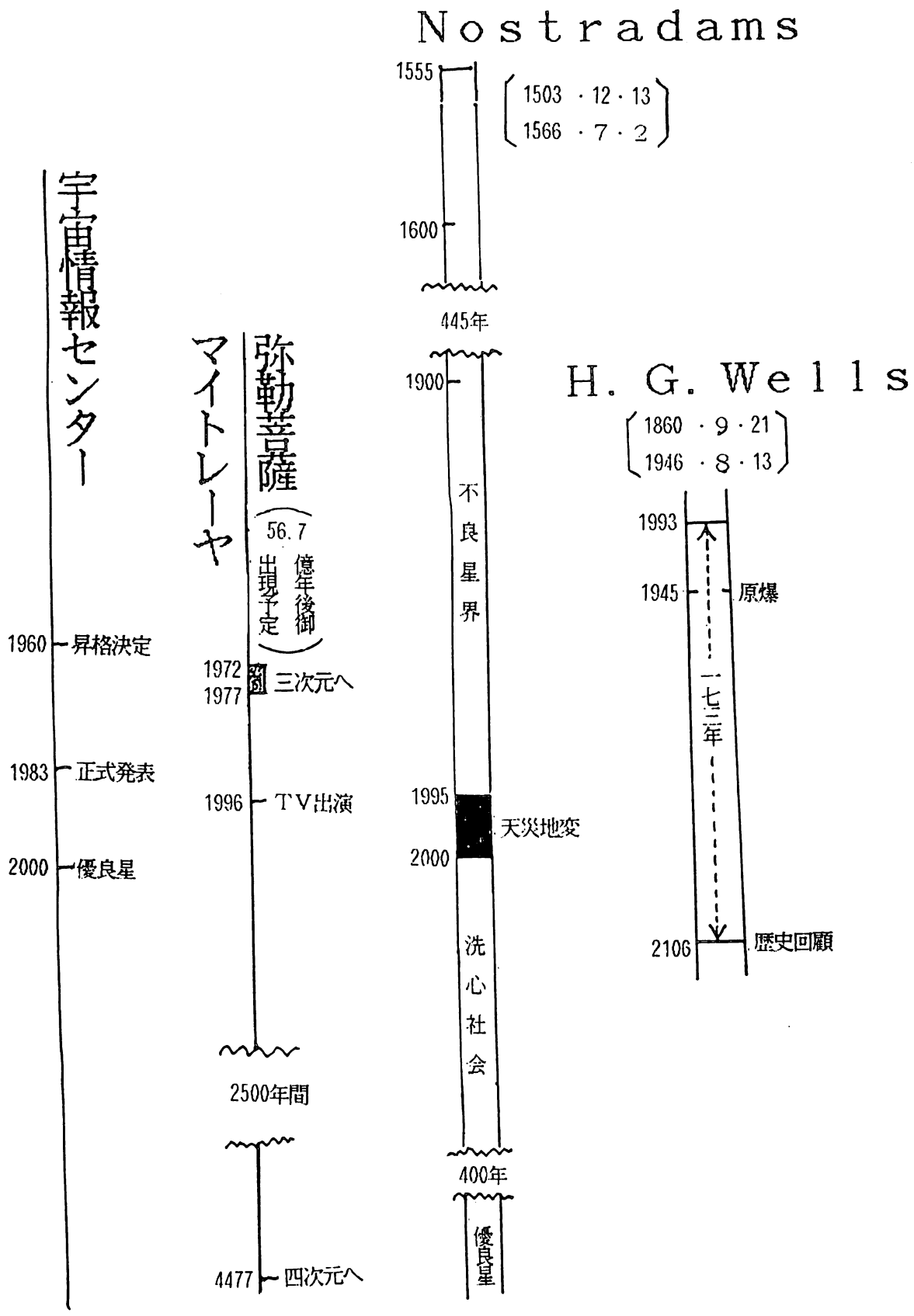

図4　主要な宇宙情報ルート